

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第16号 平成25年6月29日

少ないチャンスに1本出ず・・・

勝敗の差は出塁後の走者のケア!

	1	2	3	4	5	6	7	8	R
M	1	0	0	1	3	0	0	1	6
G	0	0	0	1	0	0	0	0	1



6/29(土) 過去三度対戦が有り、4度目の対戦となった調布マリナーズとのオープン戦を調布関東村に向き行った。チーム名は引き継がれているそうだが、層はぐっと若返ったチームに変わったとの事なので、若さからくる勢いに乗らせないようにするのが、今日のカギである。先発は光希、攻撃は後攻でプレイボールとなった。その大事な立ち上がり、先頭バッターに粘りを見せられる。結果7球を投じたが、残念ながら四球で出塁を許した。ここ最近四球が失点に繋がっているので要注意である。が、その予感的中する、大き目のリードから今にも走る、とアピールしているリード、それを牽制したが、惜しくも悪送球になり、二塁へ進塁を許す。続く投球の際に、三盗を決められ、無死三塁と失点シーンへ変わった。二番打者へ投じた4球目をきっちり外野に運ばれ、早くも失点を許した。しかし、続く二打者は内野ゴロに斬り、最少失点の1点に抑え初回を終えた。その裏の攻撃、哲也が右中間に2ベースを放ち無死二塁とこちらも、得点シーンにした。しかし、後続二打者が打ち上げ、進塁させる事が出来ず、今日4番に入った暢造がレフトへの大きな飛球を打っただけに、進塁出来なかった事が非常に悔やまれる。二回・三回と光希は無難なマウンド裁き、我がチームの打線も相手同様に凡打で二回・三回を終える。ゲームが動いたのは、4回の相手攻撃、一死とした次打者にレフトオーバーの2ベースを打たれる。次打者の時にPBで三塁に進塁、更にWPで勞せず1点を与えてしまった。後続は抑えたものの、バッテリー間のミスで重い2点目を追加された。しかし、その裏の攻撃、こちらも一死から、光希が頭部に死球を受け出塁、その後、リードで揺さぶり捕手の悪送球を誘い二塁へ進塁、次打者暢造は三内安で出塁する、続く打者の際に暢造が二盗を決めたが、残念ながら勢い付きすぎて離塁してしまい、タッチアウトしかし、このプレーを三塁走者光希が見逃さず、果敢にホームインし1点を返す、深沢も死球を受け出塁するも、後続は倒れこの回は1点とまり、しかし、その差は最少失点の1点差なので、まだゲームは分からない状況である。光希は4回でマウンドを降りたが、被安打1ながら、暴投2、与死球3は制球に課題の残る内容であった。後続を任せられたのは運脇、彼も立ち上がり良くないほうなので、立ち上がりが気になるところである。が、こちらもその的中は当たり、この回先頭にストレートの四球を与える。だが、次打者はレフトフライで一死とし、立ち上がりを見せるかと思ったが、三連続安打とWPで三点を与えてしまう。しかし、翌回には、立ち直りを見せ、一つの四球で出塁を許したが、それ以上は無く、0点に抑えた。次に動きがあったのは、6回の攻撃である、一死後二番智がライト前ヒットで出塁、三番光希は相手の失策で出塁、四番暢造は四球を選択し、一死満塁と絶好のチャンスを迎えた。ここで深沢が打席に入る。ワンボールから二球目の変化球を強振するも空振り、続く三球目を引掛けイージーな三塁ゴロ、5-2-3と最悪な結果としてしまった。時間が有る事から次のイニングに入ったが、8回にも1点を追加され、その差は5点、時間から来る最終回、二死後最近打撃上向きな哲也が今日二本目の2ベースを放ち出塁するが、後続が倒れゲームセットとなった。今日を振り返ってみると、一番はチャンスの時に1本が出なかったことであろう。色気を出さず、まずは基本のセンター返し。後の要因を確認したが、四死球の差では無いか? 相手投手が4なのに対し、我がチームは7個、更に盗塁数、我がチームは暢造が走ったが結果盗塁死、しかし、相手チームは8個を記録した。この状況を野手目線から見ても、出塁した走者へのケアが少ないように感じる。また、投球動作もクイックに工夫が必要と感じる。安打数はほぼ同数なだけに、今後はこれらに対してケアしなければ、と感じたゲームであった。そんな中で、政司君は一つ指しました。投手の投球は速球では無くキレ! 後残念だったのは、単なる練習試合になってしまった事、公式戦に向かい、オープン戦で練習し、それが出来るように繋げるのもオープン戦なので、今後はこの辺を意識して戦いたい、と感じたゲームであった。キャッチングも正しい捕球と表現されるように・・・ 5回有りました、ストライクがボールになった事が・・・